

母子栄養指導のシステム化に関する研究

分担研究報告書

分担研究者 高橋悦二郎

研究の目的

本分担研究においては、次のリサーチ・クエスチョンを設定し、その解答を得ることを目的として研究を実施した。

- I. 乳幼児栄養指導の現場に必要な指導指針は、どのような理由でどのようにあるべきか
- II. 幼児の家庭および保育所における食生活は、現状に照らしてどのように指導されるべきか
- III. アレルギー関連、あるいは口腔疾患予防に関連して、親や保母に必要かつ適切な情報は何か

研究の方法

研究協力者と共同し、また各地の実状調査を実施して、研究目的に従った検討、取りまとめを行うため、下記の研究グループを組織し研究を行なった。

- I. 母子に対する栄養指導の指針策定に関する研究（研究チームリーダー：水野清子）
- II. 離乳食、幼児食に関する研究（同：高橋悦二郎、二見大介）
- III-1 アレルギー性疾患児の食生活指導に関する研究（同：高嶋宏哉）
- 2 歯科疾患予防に関わる食習慣に関する研究（同：赤坂守人）

研究の結果

上記研究目的と方法により実施した研究の成績の概要は以下のごとくであった。

- I. 母子に対する栄養指導の指針としては、離乳食指導の指針が10年ほど前に作成されたままであるので、その改訂を念頭において調査を実施し、検討を加えた。すなわち、5～14か月児を持つ母親4634名を対象に行った離乳食実態調査結果を、「離乳の基本」（昭和55年）をベースに解析を行った。離乳の進行状況及び乳汁と離乳食とのかねあい点などに問題が提示された。一方、かなり多くの母親に離乳食づくりに対する意識の低さ、情報の迷いが観察された。これらの実態に鑑み、離乳の完了期を加えた新しい離乳食指針の策定の必要性が示された。（高橋、水野他）

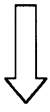
II. 乳児・幼児の食事に関する研究としては、現在の実態をふまえ、基礎的な研究を加えて実施した。3～5歳児118名の安静時代謝を測定し、エネルギー消費量を求めたが低い値を示した。エネルギー摂取量も栄養所要量に対し低かった。身体発育値は厚生省値と変わらないが生活時間調査などからも身体活動量の減少が示唆された。また、ベビーフードの使用実態調査なども行い、10年前と比較し、働く母親の増加につれて使用頻度も高くなったことが知られた。離乳食に関する情報としては、利用されているのが本、雑誌、友人、育児書、健診の機会であるのに反し、親は小児科医、栄養士など専門家から教わりたい希望が多いことが知られた。情報の質と専門家による援助の必要性が示された。(高橋、二見)

III-1. 食事アレルギーの診断は容易ではないが、現在分かっている診断基準の中で、保健婦や栄養士など食事の指導をする立場で、どのように保護者や保母に指導したらよいか検討した。そして明かな食品アレルギー患児の追跡成績をもとに、食品除去を必要とする場合の判断基準を示した。その内容としては、

- ① I g E抗体が陽性でI型アレルギーの機序が明かな食品アレルギーの例、その症状が小児の発育を傷害し、日常生活に大きな影響を与えるときは完全な除去食療法が必要である。
- ②食品に対するI g E抗体が存在するだけでは食品除去の適応にはならない。
- ③ I g E抗体陰性の場合も多くが食品アレルギーではない。
- ④長期にわたる食品除去は子どもに与える負担が大きすぎる。
- ⑤母乳に含まれる食品アレルギーの診断が確定したときも母親に該当食品の完全除去を実施する必要はない。
- ⑥いわゆるアレルギーマーチの証拠は現段階では確立していない。
- ⑦除去食療法はあくまでも医療(治療法)の一つである。 などである。(高嶋他)

III-2. 歯周疾患と食物の物性を調査した結果では、学童期で軟食傾向の者に歯周疾患が多く、乳歯列の歯列不整は、受け口などの場合そしゃく効率が悪い。これらの成績から、歯科保健の立場から小児期の食生活のあり方について提言した。(赤坂他)

以上、I、II、IIIの研究結果を通して分かったことであるが、母子栄養指導のシステム化という点ではまだ問題点が多い。例えばこの研究で見られたように、母親の多くは離乳食の知識・情報を育児書や親、友人から得ている。現在保健所や病院・診療所等における母子栄養指導も、栄養士より保健婦が行なっているところが多く、親のニーズに十分答えているとは言えない。アレルギーや歯科保健等に関する栄養指導の問題等にしても、今後ますます母子保健サービスの向上に資するよう努力しなければならない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究の目的

本分担研究においては、次のリサーチ・クエスチョンを設定し、その解答を得ることを目的として研究を実施した。

- ・乳幼児栄養指導の現場に必要な指導指針は、どのような理由でどのようにあるべきか
- ・乳児の家庭および保育所における食生活は、現状に照らしてどのように指導されるべきか
- ・アレルギー関連、あるいは口腔疾患予防に関連して、親や保母に必要かつ適切な情報は何か